

「鉢伏山で自然を満喫しましょう！」探鳥会

鉢伏山（はちぶせやま）は敦賀市と南越前町との境にある標高761.8mの山で、鉢を伏せたような丸みのある山容から名付けられました(Wikipediaより)。秋の渡りの時期、昼に渡る猛禽類や夜に渡ってきた小鳥達との出会いを楽しみましょう（担当：大坂英樹 丹南ブロック）。

渡り鳥について（最近の研究より）

・ 渡り：

渡りとは、季節的な往復移動で数百～数万kmも繁殖地と越冬地を毎年往復すること。東アジア・オーストラリア地域フライウェイを渡る5千万羽の水鳥は絶滅危惧種が32種、渡りをするスズメ目170種のうち56種が減少。

・ 渡りの経路：

繁殖地、中継点、越冬地に固執する種が多く、小鳥の幼鳥は親に遅れて渡るものが多い（遺伝的渡り）。昼間渡るタカ・ヒヨドリは特定経路で渡り、夜間の渡り鳥は日本全国を広く利用するが海を最短で渡る小鳥も多い（山形県、新潟県、若狭湾）。

・ 夜の渡り（レーダ解析）：

夜に渡る高さは200～500m（秋）、300～600m（春）が一番多く2km超を渡るものもいる。小鳥は単独で渡るが早朝は群れになる（アトリ、ヒヨドリ、ツバメ類、カワラヒワなど）。夜渡るのは被食を避けるほか、大気が安定していることが要因（田悟2020）。渡り直前に体脂肪を蓄え、温帯では気温、照度、湿度で渡りの衝動が起こるが（オオジュリン、カシラダカ）、越冬地の熱帯では雨で春の渡りの衝動が起こるらしい（中村司2012）。

・ 脅威：

熱帯雨林・湿地の消失、密猟、化学物質汚染（農薬）、風力発電施設（澤祐介2021）

見られそうな鳥リスト

（初回なので何が出るか楽しみに）

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|----------|
| ・ アマツバメ | ・ ハイタカ | ・ ヒヨドリ | ・ コサメビタキ |
| ・ ハリオアマツバメ | ・ オオタカ | ・ ツバメ | ・ ジョウビタキ |
| ・ キジバト | ・ トビ | ・ イワツバメ | ・ ホオジロ |
| ・ アオバト | ・ サシバ | ・ コシアカツバメ | ・ ノビタキ |
| ・ アオゲラ | ・ ハヤブサ | ・ ウグイス | ・ キセキレイ |
| ・ アカゲラ | ・ モズ | ・ エナガ | ・ ノジコ |
| ・ オオアカゲラ | ・ カケス | ・ メジロ | ・ ヤマドリ |
| ・ コゲラ | ・ ハシボソガラス | ・ ミソサザイ | |
| ・ ミサゴ | ・ ハシブトガラス | ・ トラツグミ | |
| ・ ハチクマ | ・ ヒガラ | ・ クロツグミ | |
| ・ クマタカ | ・ ヤマガラ | ・ エゾビタキ | |
| ・ ツミ | ・ シジュウカラ | ・ サメビタキ | |

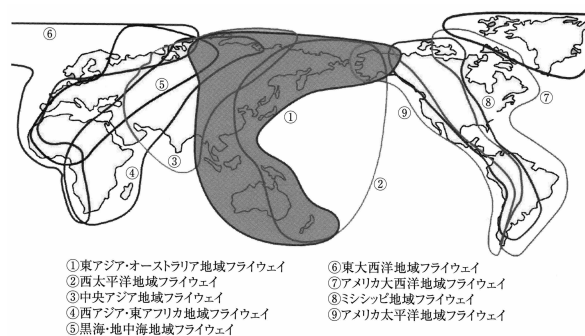


図 11.1 世界の主要なフライウェイ（東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事務局，2020より改変）。（樋口2021）

風車計画について

当地は大規模風力発電が計画され（図1）、クマタカなどの猛禽類の生息地かつ、渡り（猛禽類、小鳥）の重要な場所です。またノジコなどの中継地でラムサール登録地でもある中池見湿地に近い場所です。風車への衝突など野鳥に悪影響が懸念されます（文責：大坂英樹 丹南ブロック）。



図1 風車計画地（斜線部：正確ではありません）

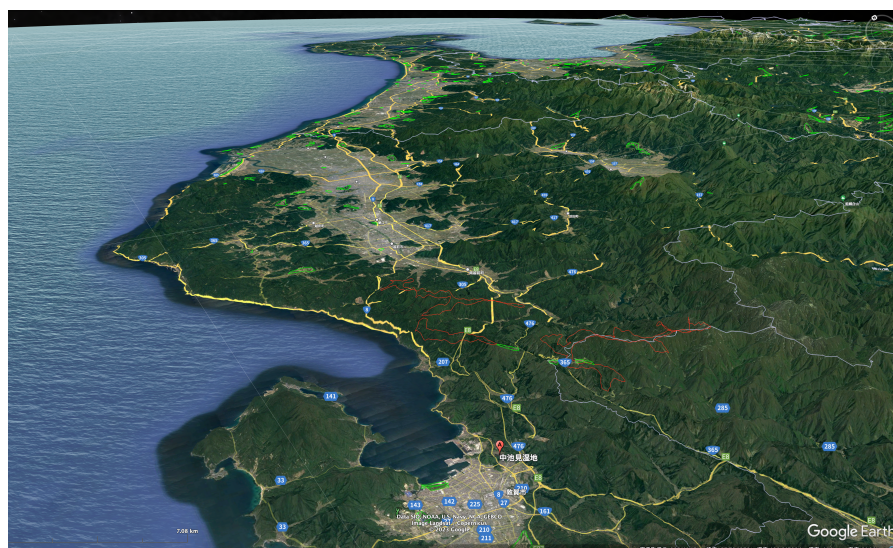
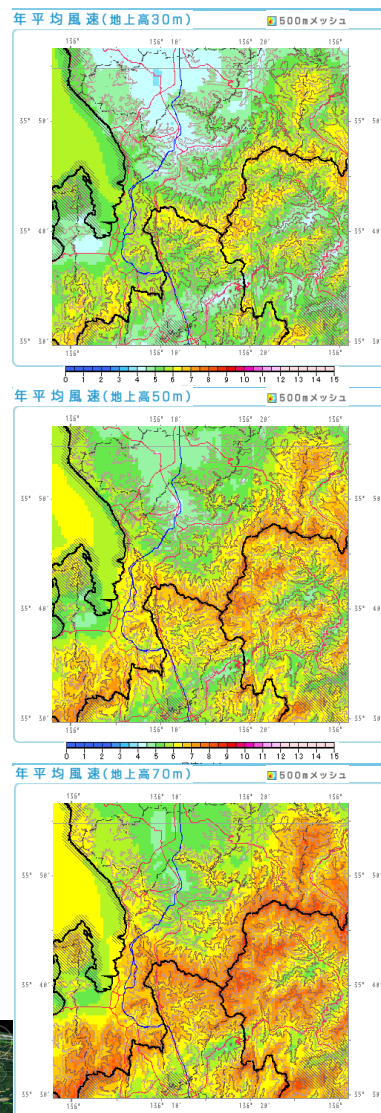


図2 中池見から北側を見た鳥瞰図